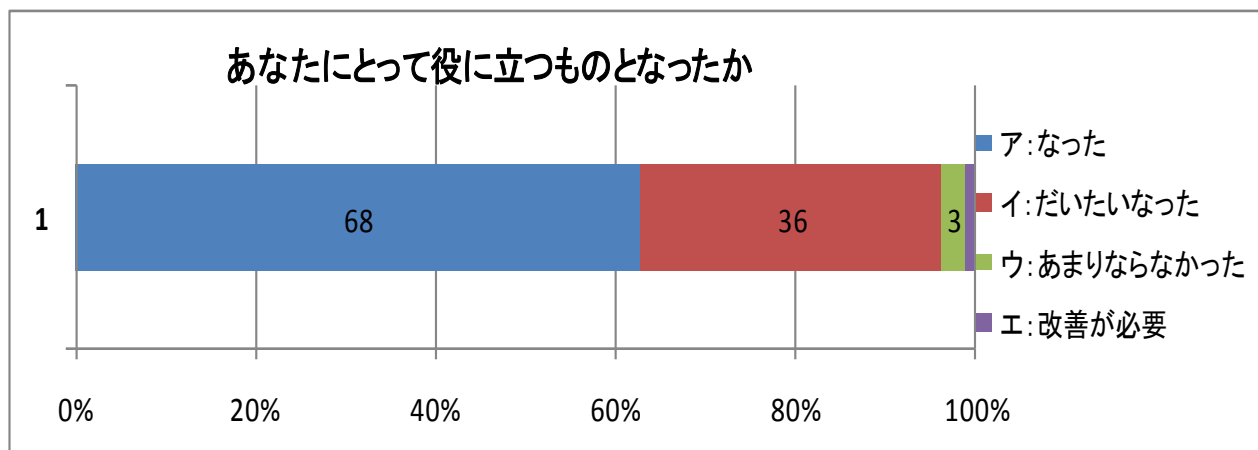


平成22年度 調査研究協議会 アンケート集計結果(小学校)

参加者数 124名 回答者数108名

1 本日の協議会は、あなたにとって役に立つものとなりましたか。

感想	人数
ア:なった	68名
イ:だいたいなった	36名
ウ:あまりならなかった	3名
エ:改善が必要	1名



2 (1)ア、イと答えた人:どのような点ですか。

- 小・中での取り組みを聞いて、幼稚園での「言葉」の領域で、すべきことを考えるきっかけとなった。
- 中学校での研究発表を聞くことがほとんどなかったので、各学校での実践例を知ることができて、よかった。
- 調査研究の三校の発表を聞き、大いに役立った。思考力、表現力をつける言語活動、ペアやグループ、クラスで考えを交流していくことなど、似たような取り組みだが、徹底した取り組みという点で、本校はまだまだだと思った。授業の流れ(思考・発信・交流・再考)を参考にし、取り入れていこうと思う。
- 本校の校内研究も言語活動の充実による、思考力、判断力、表現力の向上をねらっているの、研究を進める上で、ありがたいネタをたくさんいただくことができた。
- 東二番丁小の研究のシステム化は、大変参考になった。研究授業を無理なく実施し、かつ、教師の力を向上させるための手立てであると思った。中学校区で共通のテーマを持って研究をしていくのは大変だと思うが、意義のあることだと思った。
- 研究組織づくりから、研究の展開、まとめまで、一連の取り組みについて、ポイントを踏まえた説明、提案をしていただいたことは、勤務校での今後の計画に生かしてみたいことが、たくさんあった。
- 「理解が深まった子の姿」「朝会内容の再話」等、やってみたいと思っていて、忘れかけていたものを再認識することができた。日々の実践のなかで、工夫改善したいことや、新しくやってみたいことを書きためるノートを用意し、活用していきたいと思った。
- 言語活動を充実させていくための手立てが、とても参考になった。来年度の研究の柱の一つとして、取り入れていきたい。
- 三校の具体的な実践例が、自校のオリジナルの言語活動を作成する上で、大変参考になった。

- 仙台市の取り組みの方向性が、実践を通じた発表で、分かりやすかった。特に、片平丁小では、言語活動が各教科でどのようにされているのか、参考になった。
- 本校独自の課題はあるが、様々な教科における言語活動の例と研究の取り組みの例をお聞きすることができ、今後の校内研究や研修に生かしていきたいと思う。隣接校との協議も似通った課題があると分かり、有意義だった。
- 三校の校内研究の概要ではあるが、分かることができた。研究の進め方の工夫を知ることができたのもよかった。他校の研究主任の先生と情報交換できたところもよかった。
- 東二小と同じ小規模校であるので、授業研究会の持ち方など、大変参考になった。工夫次第で、解決できると思った。近隣校との情報交換ができて、よかった。
- 校内研究を進めていく上での全体構想の考え方について、とても悩んでいたところだったので、三校の実践はとても参考になった。聞いていても分かりやすかった。つまり、筋が通っており、ブレないということ。様々なねらいへのせまり方はあるものの、何を目指すか、明確にすることで、共通理解を図り、職員全体で取り組んでいきたいと思う。
- 取り組むべき課題として「言語活動の充実」が大きなウエイトを占めているが、多くの学校が、具体的にどのように授業でいかしていくか、模索していることが分かった。充実はあくまでも手段であり、その先に、育てたい子どもの姿を明確に持つことの大切さを改めて感じた。
- 授業研究のシステム化や、全校での赤ペン指導やペアグループ学習を行うなど、リーダーシップを発揮し、具体的に応用力を育む授業づくりをしている姿に、大いに学びたい。
- 校内研究を、「言語活動」という手立てを取るという共通点を持つことで、複数の教科・領域への取り組みでも、教師の学び合いとしての校内研究が充実したものとなり、本校にとって、参考となるものだった。
- 「話し合いのための言語活動」ではなく、「思考力、表現力等を付けるための言語活動」のよい例をたくさん紹介していただいた。やはり、「深めるため」「高めるため」の意志を伝え合う、媒体としての言語を活用していきたいと感じた。
- 今後、研究のまとめを行うので、まとめ方や成果、課題をどのように次年度に生かしていくかなど、参考になった。
- 学習のプロセスの考え方が、今後の参考になるとともに、我が校のとらえ方の方向性に間違いがないという自信を持ったこと。
- 授業のプロセスや流れ、言語活動の具体例などが参考になった。研究のまとめ方などは、少し環境の違いを感じないわけにはいかず、必ずしも吸収できない部分もあると思う。
- 初めての研究主任となり、なかなか校内研究をうまく進められずにいた。また、三校の公開も参加することができなかつたので、今回、その取り組み等を教えていただき、参考になった。他の学校の先生方の熱心な取り組みに、気持ちも新たに取り組んでいきたいと思った。他校の話も聞けたし、組織的な研究を進めるための段取りをしていきたい。
- グループ協議では、各校の実態が分かり、中学校との連携した研究もあり得るかなと思った。
- 東二番丁、片平丁の小学校公開研究会も見に行かせていただいた。中学校の全教科による教科横断的な取り組みが見られ、一教科に限らず、「言語活動の充実」のための、一本の柱を取り入れることを考えていきたいと思った。
- ノートの取り方、「交流ペン」の活用など、全校で取り組むことによって、大きな成果が得られるということを実感した。本校でも提案したいが、先生方の総意になるかどうか…、難しい。
- 東二小、片平丁小、五橋中、三校の共同研究による調査研究の実践発表を聞き、発表の内容が全校一体になっての取り組みであることや、仮説と検証が具体的であること、そして、研究主任の先生が研究推進をリードし、まとめ上げたところが、これからの私の仕事にもプラスになることができた。「教育はいま」の資料を大事にしたい。
- 座席表も机間指導も、漫然とやるのではなく、どのような工夫ができるのか、考えることが重要であることに気付かせていただいた点。

- 新学習指導要領の重要な視点である言語活動の充実について、三校のすばらしい実践を知ることにより、来年度の授業を計画する際のよい参考になった。各教科の計画に取り入れられるよう、提示していきたい。
- 各学校の発表から、今年度の研究のまとめの仕方や、次年度の課題への対応策が少し見えてきた。研究の進め方において参考になる方法がたくさんあった。近隣の小・中学校の先生方とお話しし、共通理解できる部分があり、よかった。中学校へのリレーが、近隣小学校同士でも、同じ状態でできることが大切だと思った。とても、勉強になった。
- 理論等ではなく、各学校の実践がとても詳しく発表されていて、今後、自分の学校でも取り入れられることが多かった。また、配付された資料も充実していて、よかった(聞いたときは、なるほどと思っても、忘れてしまうことがあるので)。
- 言語活動の充実に向けて、具体的な取り組みが見えたから。すぐに活用できる内容がいくつかあった。
- 研究授業の実施の仕方、授業のまとめ方などが参考になった。ノートの使い方で、一連の流れの使い方を決めている点もとてもよいと思う。
- 今年度、学年母胎の研究授業を行ってきたが、系統性を大切にしたい。その方が勉強になるという反省を持っている。教科の枠を越えた、今重要視されている言語活動を中心に、研究の進め方が参考になった。今年、国語科3年目が終わろうとしているので…。
- 多くの実践を紹介していただき、十分理解できない部分も多いのだが…。充実した言語活動を各教科で行っていくためにも、「書く活動」が重要であることを再認識した。何より、三校の先生方のゴールに向かってみんなで取り組んでいる研究への姿勢、どうすれば校内の体勢ができるか、と考えさせられた。
- 言語活動にも、授業づくりが大切であること。
- 言語活動でも、学習のプロセスを明確にして取り組むという視点も取り入れていきたい。
- 言語活動の取り組みについて、その実際を知ることができ、大変勉強になった。まずは、自分の考えを持たせること、思いを表現させることの大切さが、よく分かった。
- 情報交換では、近隣の先生から校内研究の話を知ることができた。同じ悩みを持っていることが分かったのと、同じ取り組みを知ることができ、参考になった。
- 応用力を育むために重視したい学習のプロセスの項目立てについて。東二番丁小の校内研究、研究授業の進め方と話し合う、説明し合うことを鍛えて、考えを深める姿を目指していること。
- 調査研究校三校の発表を聞くことができ、「応用力」を身に付けるとはどのような力を育てることなのか、どう評価すればよいのかという点について、多くの気づきを得ることができた。
- 来年度の校内研究の計画の参考になる。特に、「思考」と「書くこと」の関連についての発表が、興味深いものだった。
- 今年度「かわり合う児童の育成」をテーマに、研究を進めてきた。来年度も同じテーマで研究を行う予定だが、その研究に向けてのとてもよい参考になった。東二小のせつめい・話し合い名人のプリントや片平丁小の交流ペンなどが、特に勉強になった。
- 新年度に向けて、H22年度の反省から、次年度に向かうまとめの時期であるので、先進校である三校の研究体制や研究授業の持ち方が、とても参考になった。中学校区での情報交換は、とても役立つことが多い。現在は、中学校がなかなか多忙であるが、各教科と小学校のカリキュラムを見合うこともしていきたいという点で、意見の一致があり、今後に生かしていきたい。
- 話し型のパターンやノートの指導について、参考になる資料をいただいた。また、指導案の書き方で、思考→発信…など、すぐ取り入れていきたいと思う。また、近隣校と話し合うことができ、課題はみんな一緒だと思った。来年度の見通しを持った。
- 1年間を通じた研究の取り組みの様子がよく分かった。計画から授業、検討会の持ち方など、次年度に参考にしていきたいと思う。

- 片平丁小の公開を見せていただいた際、児童の発表のレベルに感心したが、本日の発表で、最初からできたわけではないと分かった。やはり、学び合い(交流)を重ねること、また、メモを上手に活用し、子どもに力を積み重ねていき、つけていくことが大切であると感じた。
- 中学校の先生と話し合う機会がよかった。小学校で指導した内容(国語の研究を6年実施してきたこと)が、中学校での国語の学習に生かされている事実を知った。発表にもあったが、9年間でとらえる言語活動の充実に向け、学んでいこうと思った。
- グループ協議の中で、青陵中・吉成中の先生方とお話し、中学校での言語活動の様子について、お話が聞けてよかった。中学生としての言語活動の姿をイメージすることで、小学校としての言語活動の充実について、あらためて考えることができた。
- 応用力を育む、言語活動の充実をはかるというのは、簡単にはいかないかも知れないが、継続して取り組んでいく必要を感じた。
- 東二番丁小学校の研究日の設定が、大変参考になった。授業研究の話し合いと、次回の模擬授業による事前検討を同日にしてしまう発想に、大変驚かされた。学年4回という充実にも、先生方の熱意と学校としての深まりを強く感じた。
- 指導案はA42枚、全員授業、短時間の検討会など、日々の仕事になるべく支障がないように研究を継続していくことが大事だと思った。また、学習指導にあたるときに、系統性を考え、同じ視点で指導していくことが大切だと思った。

2 (2)ウ、エと答えた人:どのような点ですか。

- 三校それぞれの校内研究の概要、成果と課題を聞いただけで、共通点がどこなのか、何が自校の参考になるのかが、よく分からなかった。共同研究ならば、共通の成果と課題をまとめて発表するような形式でないと、単なる各校の発表会で終わってしまう。
- 研究の進め方の話が多く、具体的に言語力を育むのかという提言が少なかったように思う。

3 本日の協議会を踏まえて、今後言語活動を充実させる指導のために取り上げてほしいことがあればお書き下さい。

- 教科の特性を踏まえつつ、学校全体で取り組めるような言語活動例(授業、日常の取り組み)について、紹介していただける機会があるとありがたい。
- 児童に身に付けさせたい力や話形例。
- 各教科における子どもたちの“学び合い”の実践例。先進校の授業を、今後も見学する機会があるといい。
- 各教科のねらいにせまるために、各教科で必要とされる言語活動にはどんなものがあるのか(各単元における有効な言語活動等)。
- 児童生徒が活用した結果、表現した事項をどのように評価していくか、信頼性、妥当性のあるものとして、また、経験等が大きく異なる教員が、同様な評価をすることができるような評価のトレーニング等について、取り上げていただきたい。
- 伝える方法—伝える姿、聞く力—聞き合う力、話し合う姿—話し合い方、⇒応用として、話し合いの手立てを、いろいろな視点から提供してほしい。
- 小・中の9年間で、互いに連携し、発達段階に合わせてどんな子どもの姿を目指していくのかを共有し、効果的に協力しながら、子どもたちを育てていくことが必要。その段取りを、どうしていくかを具体的に考えていきたい。
- C段階の子どもたちへの有効な支援の仕方を取り上げてほしい。
- 形式化にならない言語活動の実践→授業の中だけでなく、日常生活につながっていくような…。追跡調査→小学校で身に付けてきたことが、中学校に進んでどうなり、どう変化、付加され「生きる力」につながっていくのか。(これは、これからなのだと思うが、ぜひ知りたいところだ)
- 言語活動の充実を図る上で、効果的な視聴覚機器等の活用方法。

- 言語活動としての、学年間の系統性について取り組んでいるところがあれば、具体的に知りたい。
- ペア、グループ活動の持たせ方、話し合わせ方、方法などを知りたい。学習のねらいにせまるための、手段としてのグループ・ペア活動の持ち方。
- 「書く活動」「聞く活動」が、言語活動を充実させるために必要だと感じた。そのためにも、「思考→発信→交流→再思考」のモデル授業を、多く紹介していただき、勉強したい。
- 質問にもあったが、何をどのように評価して、応用力、言語能力が向上したとするのか。いろいろな事例や評価方法の情報交換ができるとうい。
- 「子どもの考えを深める」「応用力をつける」「意図的指名」などのテーマ（より具体的な効果的な手立てなど）。
- 年間の単元や教材の中で、どんな言語活動例が考えられるのか、スタンダードカリキュラムに載っているもので、その周知を図っていただけたらと思う。言語活動が、どうして大きく取り上げられているのか、やはりセンターで、全員研修すべきだと思う。
- ペアやグループで話し合いを進めさせる際の観点の選び方、活発になるための工夫。
- 今日発表のあった実践例を、センターのWeb上で、紹介してほしい。昨年の高木先生の講話は、とても参考になった。来年度もあのようなすばらしい講師の方を招いた研修会を開いてほしい。
- 成果や課題をはっきりさせるための方法。数値化という質問もあったので…。「高まった」「できた」について。
- ペア学習をきちんと見取り、共有していくための手立てや、具体的な指導の事例を多く知りたい。
- 具体的な例での「言語活動の充実」ができている授業例の紹介など、分かりやすい形での授業例を取り上げてほしい。
- 本校は、体育科を研究教科として実践しているが、やはり言語活動をどのように授業の中で生かしていけるかが課題だ。
- 言語活動を、カリキュラムの中にどう位置づけるのか、いろんなやり方があるのなら、教えていただきたい。
- ペア、小グループでの話し合いのときの指導のあり方、評価について。
- 新指導要領における「言語活動」のとらえ方と、思考・表現の評価の考え方についての解説や具体例についての研修があるとうれしい。
- 各教科での取り組みを、学校行事やクラブ活動、委員会活動、児童会活動、また、生活一般の中でどう生かしていったらいいのかを学びたい。
- PISA型の学力や、応用力を育む指導法について、先進的な研究に取り組んでいる研究者等の話をじっくり聞きたい。